

《馬乗》の建築短歌

宝塚市立小浜宿資料館のパフレットに「小浜地域は、明応年間（15世紀末）に浄土真宗の毫撰寺が建立され、その寺内町として発展しました。」と記述されています。〈明応〉は延徳四年・1492年7月19日の改元から明応十年・1501年2月29日までの年号です。

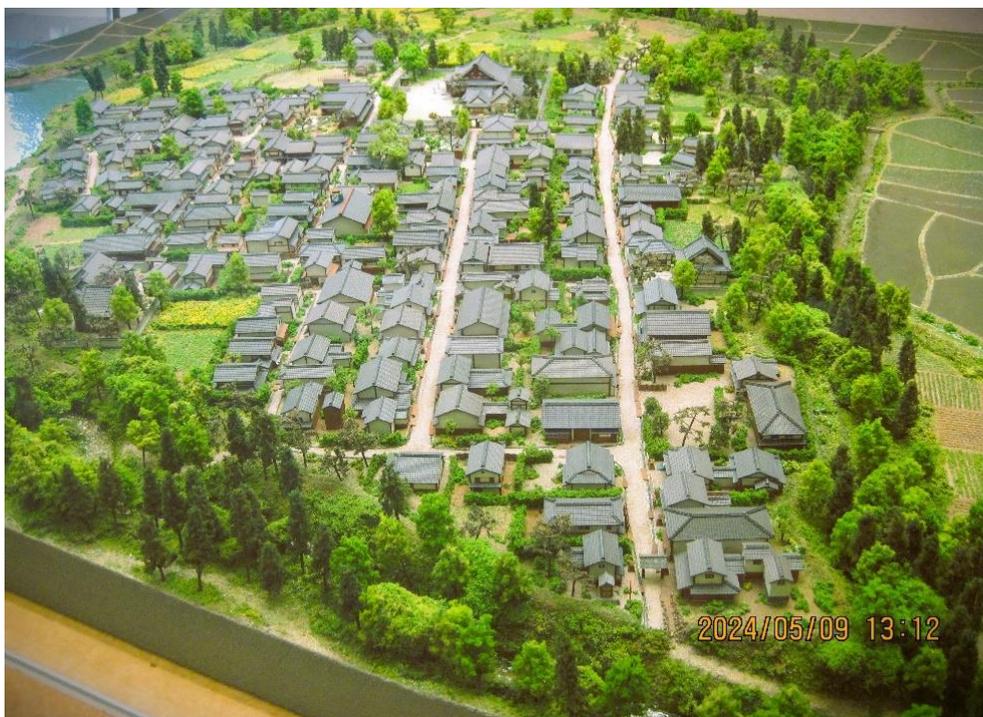
浄土真宗・毫撰寺（ごうしょうじ）は第103代・後土御門天皇の御代に建立された佛寺ということですが、当時は〈応仁の乱〉後ですので、過酷な戦国時代になっていました。

『誰でも読める日本中世史年表』明応元年・壬子・1492年を参照すると、5月21日「疫病流行．諸寺社に祈禱を宣下（和長卿記）。」、5月29日「近畿・東海で大雨洪水（親長卿記）。」などの災害も記載されています。

毫撰寺を見学する前に、宝塚市立歴史民俗資料館で小浜（こはま）宿について親切な説明をして頂きましたが、戦国時代については不明な事が多いそうです。

それでも17世紀以後になると、文献史料の研究結果により、生活状況について様々な事が明らかになっているそうです。

ただ、私是一向一揆に関心があるため、戦国時代の毫撰寺・寺内町について知りたいと思っています。加賀国一向一揆による国盗りが、日本における民主主義の初見のように思える重大インシデントだからです。



〈小浜宿模型〉



〈浄土真宗・毫摂寺〉

毫摂寺・寺内町とは言っても、現在は浄土真宗以外の浄土宗・法仙寺、日蓮宗・本妙寺、皇大神社もありますが、それでも浄土真宗・毫摂寺は寺内町のランドマークになるほどの広い敷地を有しており、戦乱や災害が発生した時には、避難地になるぐらいです。

寺内町は城下町のような、めざましい発展を実現する事はできませんでしたが、戦国時代と一向一揆の歴史を学習するための貴重な遺跡であり、今後も見学したいと考えています。

おわりに、夏の日の建築短歌を詠ませていただきます。

～ とほざかる 武庫川の舟 ゆふ暮れの

古寺の日蔭に 忘れ草かな ～

大阪工業技術専門学校 工業専門課程 I 部 建築学科 1998年卒業 川島 瑞穂